

2. 歯科保健医療へのアクセスが困難な人々への対応

取組の方向性

①障害者（児）、要介護者を受け入れる歯科医療機関の増加

障害者（児）・要介護者にとって、口の健康が全身の健康に及ぼす影響は、一般の人よりも大きいので、実際に定期的に歯科受診ができるような取組が必要です。

今までの市の取組

- 歯科医療技術者養成事業による歯科専門職を対象にした研修の実施

今後の取組案

- ・ 発達障害者（児）がスムーズに歯科受診できるよう、受診可能な歯科医療機関の情報を提供する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護 1~2 介護認定 無	KDB (後期高齢者)	50.1% 64.5%	介護度 による 差を無 くす	令和4年度
障害者（児）を受け入れている歯科医療機関数の増加	歯科医療 機関	おかやま医 療情報ネッ ト	97 /461 施設 (知的 (中等度・ 軽度))	200 施設	令和5年8 月31日現 在 現状値×2

取組の方向性

②在宅療養者への訪問診療等の充実

施設等に入所せず、在宅で生活する障害者（児）や要介護者をはじめ、近年話題になっている医療的ケア児の中には、歯科医療機関への受診が困難な方がおられます。在宅で生活していても、定期的に口腔ケアや歯科診療が受けられる環境づくりが必要です。

今までの市の取組

- 訪問看護師対象の研修会の実施

今後の取組案

- ・ 在宅療養者に関わるケアマネージャーやヘルパーに対して、歯科訪問診療等に関する研修や情報提供を行い、在宅療養者の適切な口腔ケアや歯科診療につなげる。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護 3~5 介護認定 無	KDB (後期高齢者)	56.0% 64.5%	介護度 による 差を無 くす	令和4年度
歯科訪問診療を行う歯科医療機関数の増加	歯科医療 機関	おかやま医 療情報ネッ ト	239 /461 施設	300 施設	令和5年 10月13日 現在 歯科保健基本計 画(第1次)

取組の方向性

③障害者（児）入所施設、要介護者入所施設職員の口腔ケアの知識と技術の向上

施設における歯科検診の実施率は増えており、口腔ケアの重要性や必要性が浸透してきた結果と考えられます。今後は、歯科検診の結果を参考にして、個々の入所者の状況に応じた日常のケアを行うことができるようにする等、口腔ケアの質の向上が期待されます。

今までの市の取組

- 歯科保健推進事業による入所者の歯科検診と職員への助言

今後の取組案

- ・ 施設指導等の機会を利用し、口腔ケアの質の向上に関する情報を発信する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
年1回以上、歯科検診を実施している障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	92.9%	100%	歯科保健基本計画（第1次）
口腔ケアに関する研修を行っている障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	42.8%	100%	
年1回以上、歯科検診を実施している介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	歯科アンケート	60.9%	100%	歯科保健基本計画（第1次）
口腔ケアに関する研修を行っている介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	歯科アンケート	42.4%	100%	

3. 医療・各種サービスとの連携

取組の方向性

①多職種連携の推進

糖尿病患者における歯周病の悪化やがん治療時の口腔粘膜炎の発症等、口の状態と全身の状態はお互いに影響を及ぼし合っていることがわかっています。医科歯科連携、病診連携等をすすめるとともに、病気になってから慌てることのないように、日頃からの口の健康管理が大切です。

今までの市の取組

- 岡山県がん診療連携協議会への出席
- 糖尿病リスク者（HbA1c5.6%以上）への歯科検診の受診勧奨

今後の取組案

- ・ がん診療連携登録歯科医の紹介等、がん治療における歯科口腔保健の重要性を啓発する。（岡山市 HP）
- ・ がん治療や糖尿病治療を受ける患者を歯科受診につなげるため、医科歯科連携の深化が図れるように、研究を進めていく。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	糖尿病 治療中	KDB (国保)	49.8% (40歳代)	95%	令和4年度 歯・口腔の健康づくりプラン： 歯科検診の受診率
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	がん 治療中	KDB (国保)	61.4% (40歳代)	95%	令和4年度 歯・口腔の健康づくりプラン： 歯科検診の受診率

取組の方向性

②かかりつけ歯科医機能の周知と推進

岡山市の歯科医師数は、政令指定都市・特別区の中で4番目に多く、歯科医療機関にアクセスしやすい環境です。恵まれた歯科医療環境の中、約7割の幼児は、定期的にフッ素塗布を受けており、幼いうちにかかりつけ歯科医を持って、口の健康管理をしていることが分かります。しかし、ライフスタイルの変化に伴い、20歳代から40歳代にかけては、定期的に歯科検診を受ける者は減少し、歯周病等の自覚症状が現れる50歳代から再び歯科を受診する傾向にあります。一度、歯の健康が損なわれると、治療をしても歯は決して元の状態には戻りません。口の健康管理は、どんな人にも必要なことであり、幼児期以降も定期的な歯科受診が続くように、かかりつけ歯科医機能についての周知と推進が必要です。

今までの市の取組

- 親子手帳・子育てのしおり等による啓発
- 妊婦・パートナー歯科健康診査時の保健指導
- 幼児健康診査受診時の保健指導
- 歯周病検診／口腔機能健診
- 健康教育等の機会を活用した啓発

今後の取組案

- ・ 6歳臼歯（第一大臼歯）が生えてくる小学校1年生向けの、永久歯のむし歯予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。
- ・ 中学生向けの歯周病予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。
- ・ 健康教育等の機会を利用し、おとなのむし歯対策に関する知識の普及を徹底する。
- ・ 事業所職員を対象に研修を行い、歯周病対策の必要性に関する啓発を行う。
- ・ 子育て情報アプリのプッシュ通知機能を活用し、保護者向けの歯周病対策に関する情報を発信する。
- ・ 健康教育等の機会を利用し、口腔機能の維持・向上に関する知識の普及を徹底する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17 年度)	備考
定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査	68.5%	90%	令和4年度
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	21 アンケート	52.4%	95%	歯・口腔の健康づくりプラン：歯科検診の受診率
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	40歳代	KDB (国保)	45.8%	95%	令和4年度 歯・口腔の健康づくりプラン：歯科検診の受診率
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護 1~2 3~5 介護認定 無	KDB (後期高齢者)	50.1% 56.0% 64.5%	介護度 による 差を無 くす	令和4年度
かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の数の増加	歯科医療 機関	中国四国厚生局	99/442 施設	200 施設	令和5年5 月22日現 在 現状値×2

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
定期的に歯科受診している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート 歯・口腔の健康づくりプラン：歯科検診の受診率

目標項目一覧

		目標項目	対象者	出典	直近値	目標値				
									(R17年度)	
口腔機能の獲得、維持・向上	発育	良好な口腔領域の成長 おける口腔領域の健全な育成	園医等歯科専門職による口腔機能の健全な育成に関する歯科保健教育を実施する園の割合の増加	幼稚園・保育園・認定こども園	歯科アンケート	49.3% (園医等)	70%			
			学校歯科医等歯科専門職による歯科保健教育を実施する学校の割合の増加	小学校	歯科アンケート	50.5% (学校歯科医等)	70%			
	歯科疾患の発生予防	むし歯予防対策	永久歯(成人)のむし歯予防対策	フッ素塗布を受けたことのある幼児の割合の増加	1歳6か月児	1歳6か月児健康診査	44.0%	65%		
				むし歯のない幼児の割合(処置済も含め)の増加	三歳児	三歳児健康診査	88.4%	98.5%		
				定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査	68.5%	90%		
				一人平均むし歯数(処置済も含め)の減少	12歳児 (中学校1年生)	学校保健概要調査	0.53	0.2		
		歯周病予防対策	学齢期からの歯周病予防対策	歯ぐきに炎症所見を有する生徒の割合の減少	中学生	学校保健概要調査	20.4%	10%		
				学校歯科医等歯科専門職による歯科保健教育を実施している学校の割合の増加	中学校	歯科アンケート	25.5% (学校歯科医等)	50%		
	歯科疾患の重症化予防	成人・高齢者のむし歯対策	歯数の増加に伴う成人・高齢者のむし歯対策	未処置歯を有する者の割合の減少	健診受診者	歯周病検診・口腔機能健診 (国保受診勧奨者以外)	29.5%	20%		
				フッ素洗口を実施している者の割合の増加	一般 (20歳以上)	21アンケート	16.3%	50%		
				過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	21アンケート	52.4%	95%	21指標	
				歯周炎を有する者の割合の減少	健診受診者 (40・45歳)	歯周病検診 (国保受診勧奨者以外)	67.0%	25%	21指標	
成人・高齢者の歯周病対策		歯数の増加に伴う成人・高齢者の歯周病対策	歯間ブラシを使用している者の割合の増加	40歳代	21アンケート	57.1%	70%			
			過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	21アンケート	52.4%	95%	21指標	再掲	
			歯科健康教育を実施している事業所の割合の増加	事業所	21アンケート	10.3%	30%			

		目標項目	対象者	出典	直近値	目標値			
									(R17年度)
口腔機能の獲得、維持・向上	高齢者の口腔機能の悪化への対応	成人・高齢者の口腔機能の維持・向上	現在歯数が24本以上の者の割合の増加	60歳 (55~64歳)	21 アンケート	80.4%	95%		
			現在歯数が20本以上の者の割合の増加	80歳 (75~84歳)	21 アンケート	63.9%	85%		
			お口の体操を実施している者の割合の増加	50歳 (45~54歳)	21 アンケート	3.9%	50%		
				80歳 (75~84歳)		16.5%	70%		
			口腔機能が低下していない人の割合の増加	50歳 (45~54歳)	21 アンケート	66.6%	85%	21 指標	
				80歳 (75~84歳)		35.7%	70%		
歯科保健医療へのアクセスが困難な人々への対応	科医療機関の増加 障害者(児)、要介護者を受け入れる歯	過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護1~2 介護認定無	KDB (後期高齢者)	50.1% 64.5%	介護度による 差を無くす			
			障害者(児)を受け入れている歯科医療機関数の増加	歯科医療機関	おかやま医療情報ネット	97/461 施設 (知的(中等度・軽度))	200 施設		
	在宅療養者への訪問診療等の充実	過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護3~5 介護認定無	KDB (後期高齢者)	56.0% 64.5%	介護度による 差を無くす			
			歯科訪問診療を行う歯科医療機関数の増加	歯科医療機関	おかやま医療情報ネット	239/461 施設	300 施設		
	口腔ケアの知識と技術の向上 障害者(児)入所施設、要介護者入所施設職員の	年1回以上、歯科検診を実施している障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	92.9%	100%			
			口腔ケアに関する研修を行っている障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	42.8%	100%		
			年1回以上、歯科検診を実施している介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	歯科アンケート	60.9%	100%		
			口腔ケアに関する研修を行っている介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	歯科アンケート	42.4%	100%		

		目標項目	対象者	出典	直近値	目標値		
		(R17年度)						
医療・各種サービスとの連携	多職種連携の推進	過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	糖尿病治療中	KDB (国保)	49.8% (40歳代)	95%		
		過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	がん治療中	KDB (国保)	61.4% (40歳代)	95%		
	かかりつけ歯科医機能の周知と推進	定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査		68.5%	90%	再掲
		過去1年間に歯科検診を受診した者の割合	一般 (20歳以上)	21アンケート		52.4%	95%	21指標 再掲
		過去1年間に歯科受診した者の割合	40歳代	KDB (国保)		45.8%	95%	
		過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護1~2 要介護3~5 介護認定無	KDB (後期高齢者)		50.1% 56.0% 64.5%		介護度による 差を無くす 再掲
		かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の数の増加	歯科医療機関	中国四国厚生局		99/442 施設	200 施設	

21 指標：健康市民おかやま 21（第3次）の指標